

2025年度(令和7年度)学校評価自己評価表

神辺東中学校区	校番	福山市立竹尋小学校
最終更新日		2026年(令和8年)2月2日

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 資質・能力	課題解決力・コミュニケーション力
<ul style="list-style-type: none"> 各校とも、知・徳・体に係る工夫した取組がなされている。児童・生徒のつますきへのアプローチや心の教育の充実、幼保小中連携教育を今後とも進めてほしい。 研究方法等の工夫が見られる。児童・生徒、教職員、保護者・地域が、ともに挑戦できる場を大切に、やりがいや充実感が一層向上することを期待する。 	<p>小集団での人間関係づくりはできるが、大きい集団における関わりには課題が見られる。</p> <p>学習に向かう意欲や、努力する態度が育ってきた。</p> <p>基礎学力定着に向け、さらに評価の精度を上げるとともに、活用場面の充実を図る必要がある。</p>	<p>めざす子ども像(義務教育修了時の姿)</p> <p>自己を認識し、「なりたい自分」をめざし、自分の人生を選択し、自分らしく表現することができる。</p>	<p>【学びづくり部】 校区研究テーマを踏まえ、課題発見・解決型の学びづくりを行う。</p> <p>【生徒指導部】 小中及び小中連携・交流活動の実施、生徒指導規程の見直しを行う。児童・生徒の実態交流及び連携を行い、進路指導について研修する。</p> <p>【健康・体力づくり部】 児童・生徒が自らよりよい生活習慣づくりをするための取組を行う。</p> <p>※よりよい学習習慣や生活習慣づくりに向けた系統的な指標「校区スタンダード」の作成</p>
		中学校区として統一した取組等	

III 自校

ミッション	育成する力 資質・能力	課題解決力	コミュニケーション力(学びに向かう力)
「いつもニコニコピンピン明るく元気に」の「ニコピン精神」を反映させた教育活動の伝統を引き継ぎ、持続可能な社会の担い手として、郷土への誇りを持ち自立した児童を育てることで、地域・保護者から信頼される学校にする。	低	問いを自分事として粘り強く考えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いを、相手に伝わる声の大きさではっきりと伝えることができる。 相手の思いを受け止めることができる。
学校教育目標	めざす子ども像	中	相手の思いを受け止め、自分の思いも伝え、互いの考えの良さを語るができる。
自ら気づき、考え、行動する子どもの育成	高	自ら課題を見出し、より良い解決方法を考えて実行し、次の学習につなげることができる。	多様な考えがあることや互いの良さに気付き、伝え合うことができる。
現状	研究	テーマ	「自分の思いや考えをもち、伝え合う子どもの育成」 ～ 問いを生かした授業づくり ～
<p><児童生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本的な学びに向かう姿勢や学習習慣は少しずつ定着してきており、基礎学力も徐々に定着しつつある。 ○総合的な学習の時間や生活科で地域のよさに触れ、故郷への愛着を高めつつある。 ●学年単学級で固定化された学級集団で生活しているため、自分の良さを発揮する機会が限られ、自分の思いや考えを豊かに表現する力が弱い。 <p><授業></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「問い」と「言語活動」を中心に子どもが主体的に学べる授業づくりを行っている。 ○単元内自由進度学習を取り入れ、児童が学びを選択したり、学び方を振り返ったりすることで、主体的な学習者を育てる。 ●児童の実態と教材から読ませたい「問い」をつくるなど、「問い」を精選する必要がある。 	内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・単元を通して学び続ける問いの工夫や単元構想 ・児童自ら課題を発見、解決方法を共有し、協働的、対話的に学びが進む授業づくり 	
	めざす授業の姿		<ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人が明確なねらいをもち、自己の学びに関連付けて振り返る授業 ・「課題発見・解決学習」の過程の中に、対話が位置づいた授業 ・問いを追究し、児童が主体的に学び、表現する授業

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立竹尋小学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る取組状況	70%以上達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況	70%以上達成評価	総合評価	改善方策		
2	自分の思いや考えをもち、伝え合う子どもの育成	★	継続	自分の学びの選択や見直しを行い、学び続ける学習者の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○「問い」から学びをつくる授業構成の創造。 ○単元の内容に応じて自由進度学習を取り入れ、個に応じた学びの選択ができるようにする。 ○自分の意見をもって対話に臨める機会を設定する。 ○帯タイムの時間を利用して基礎学力の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全国学力・学習状況調査児童質問紙32の肯定評価90%以上、29の肯定評価75%以上(全学年で実施) ○国語科・算数科の単元テストにおいて、70%未満の児童を15%未満 	<ul style="list-style-type: none"> □全国学力・学習状況調査児童質問紙32の肯定評価85.2% 29の肯定評価61% □国語科・算数科の単元テストにおいて、70%未満の児童 国語：9.9% 算数：13.5% 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートや課題を選択できるようにし、個に応じた指導を行う。 ○自分の考えを書く時間を設け、内容を整理したり自信をもたせたりする。 ○各教科の用語を使うなど、条件に沿って書いたり話したりするようにする。 ○授業や帯タイムに思考・判断・表現力を問う問題に取り組む時間を計画的に設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> □指標に係る取組状況 ◎短期・中期経営目標の達成状況 ◎学びの選択を取り入れることで、学び続ける児童を増やすことができた。 □全国学力・学習状況調査児童質問紙32の肯定評価92.4% 29の肯定評価79.4% □国語科・算数科の単元テストにおいて、70%未満の児童 国語：8.5% 算数：15.9% 	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ○引き続き、課題を選択できるようにし、個に応じた指導を行う。そのために、児童の理解度の実態を把握しておく。 ○自分の考えをまとめる時間を設け、表現する際には、教科の用語を使うなど、より詳しく表現できるようにする。 ○「問い」の設定を行い、学び目的を意識づけ、帯タイムも活用しながら基礎学力の定着を図る。
1	授業に地域人材を活用し、地域への愛着・貢献する心の育成	★	新規	地域の課題を見つけ、解決しようとする児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○総合的な学習の時間や生活科で地域や自然を教材として、地域に関する課題や疑問に気づき、できることを考える機会を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各学年で地域の自然や文化などに触れる機会を設定し、「地域の良さや課題に気づき、解決しようとした」肯定的評価85%以上 	<ul style="list-style-type: none"> □各学年で地域の自然や文化などに触れる機会を設定し、「地域の良さや課題に気づき、解決しようとした」肯定的評価86.4% 	4	3	<ul style="list-style-type: none"> ○活動の振り返りを行い、どのような課題があったかを明確にする。とともに、次年度に向けて解決すべき目標を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎地域の課題を意識し、解決しようとする児童の割合が高まった。 □各学年で地域の自然や文化などに触れる機会を設定し、「地域の良さや課題に気づき、解決しようとした」肯定的評価88.1% 	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ○総合的な学習の時間や生活科で付けたい力を明確にし、カリキュラムマップに沿って地域の課題を自ら見つけ、解決していく単元設定を行う。
5	自らの目標に向かってよりよく生きる力の向上		継続	健康的な生活習慣と主体的な体力づくりによる体力向上	<ul style="list-style-type: none"> ○体力づくりコーナーを設置し、課題に応じた運動に児童主体で取り組む。 ○メディアの使用時間を調査し、家庭と連携 	<ul style="list-style-type: none"> ○体力テストでの握力・長座体前屈の平均値を前年度の同学年以上 ○メディア使用時間の自己目標を達成した 	<ul style="list-style-type: none"> □体力テストでの握力・長座体前屈の平均値を前年度の同学年以上を達成した割合が54%であった。 □メディア使用 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ○体育の授業での補強トレーニングや雑巾絞りの指導を行い握力の向上に努める。家庭での柔軟体操の取り組みを周知する。 ○メディアに関わ 	<ul style="list-style-type: none"> ◎自らの目標に向かってよりよく生きる力と体力の向上を図れた。 □体力テストでの握力・長座体前屈の平均値を前年度の同学年以上を達成した割 	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ○体育の時間以外で運動機会を増やし、さらに体力向上を図る。 ○学級や道徳、各教科の時間でメディアの使い方を扱い、年間を通して指導を行う。

				してメディア利用を減らす取組を行う。(メディアコントロール週間)	児童の割合を70%以上	時間の自己目標を達成した児童の割合が69.6%であった。			るミニ保健を行ったたり、取組の具体を通信等で発信したりする。	合が91%であった。 □メディア使用時間の自己目標を達成した児童の割合が 第3回76.6% 第4回72.4%				○メディア時間や体力向上に関わる自己目標設定を行い、よりよく生きる力を高める。 ○生命の安全教育を行い、メディアの使い方や健康等の学習を進める。
3	個性や能力が発揮できる学校組織	継続	自ら仕事内容を把握し、一人一人が目標を立てて実践する力の向上	○個々が自分の専門性や強みを生かす目標設定を行い、実践する。 ○学校運営面で教職員からの意見を求めながら参画意識を高める。 ○分掌について、目的と方向性を確認しながら、企画立案する。	○「仕事に意義ややりがいを感じている」90%以上 ○「本音を気兼ねなく発言でき、個性が認められている」という実感がある」90%以上 ○時間外在校時間月45時間以内、年360時間以内の職員85%	□「仕事に意義ややりがいを感じている」100% □「本音を気兼ねなく発言でき、個性が認められている」という実感がある」71.4% □時間外在校時間月45時間以内、月平均30時間以内の職員92.3%	3	3	○引き続き個々が自分の目標設定を行い、実践する。 ○小グループでの話し合いの時間を設定するなどして意見を出しやすくする。 ○目的を確認しながら企画立案し、会議等の時間設定を行う。	◎目標を立てて主体的に実践しようとする意識については成果が見られたが、取組の定着には課題が残った。 □「意義ややりがい」92.3% □「本音を気兼ねなく発言、個性が認められている」84.6% □時間外在校時間月45時間以内、月平均30時間以内の職員の84.6%	3	3	3	○職員間の対話や意見交換の機会を意図的に設ける。 ○業務の整理・効率化を進め、安心して意見を発信しながら主体的に目標に取り組める職場環境づくりを進めていく。

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。